

第46回 東海北陸生協行政合同会議開催報告

- 日時 : 2024年10月11日(金) 午後1時30分から午後5時
- 場所 : 静岡勤労者総合会館
- 主催 : 東海北陸生協県連協議会
(石川・岐阜・静岡・三重・富山・愛知の各生協連)



■趣旨

東海北陸6県の行政と生協の相互理解を深める事を基本に、今年のテーマを「地域とのネットワークを生かした生活支援」とし、行政からは消費者行政の現状を報告、生協からは活動状況を報告

■参加者:61名 行政12名、日本生協連2名、生協47名

■開催地生協あいさつ

静岡県生協連 会長理事 稲垣滋彦

■来賓あいさつ

静岡県くらし・環境部 部長代理 杉本昌一 様

■主催者代表あいさつ

東海北陸県連協議会 代表 愛知県生協連会長理事 加藤昭夫

東海北陸生協行政合同会議

石川県上原

・本日の会議では能登半島地震における生協の活動について学び、行政とどのように連携していくかを考える機会としたい。また生活弱者に対し、生協がどのように関わっていけるのか、やるべきことを見出すきっかけにしていきたい

■厚生労働省挨拶

社会・援護局 消費生活協同組合業務室室長補佐 寺坂泰亮 様

- ・生協の皆さんには能登半島地震で多くの支援をいただいた
また、国の施策にも協力いただき感謝します
- ・厚生労働省では法律の改正をすすめ、高齢者や子育ての支援を
していく、目指す方向は国も生協も同じだと認識している

■日本生協連報告

渉外広報本部 執行役員・本部長 松本圭司 様

- ・能登半島地震での多くの支援にお礼を申し上げます
災害が多く発生しており、被災者支援は地域の大きな課題である
- ・全国の生協の事業の到達点と概要など報告

■特別講演①

「コープ被災地支援センター活動報告」

石川県生協連 専務理事 吉本 輝芳 様



コープ被災地支援センターの取り組み

- ①被災自治体へ支援物資のお届け、避難所への運搬
- ②ボランティアセンターの運営支援・ボランティア活動
- ③仮設住宅への調味料セットのお届け
- ④炊き出しやサロン活動の支援
- ⑤つながる力で能登を笑顔にミーティングの開催

②地震
※能
※断
※の
国
③9月
・死者
・負傷
・住宅
・避難
④石川
・能登
・会員
・各会

■特別講演②

「能登半島地震の発災を受けコープいしかわが取り組んだこと」

コープいしかわ 理事長 大谷 学 様

被災地支援活動に取り組むにあたり大切にしていること

①命を守る行動を最優先に

②「たすけあい」「ささえあい」「つながりあい」を大切に

③一人が無理することなく、みんなの力で心を一つに

④「組合員」「職員」「地域」の声を聴き、

それぞれの暮らし(被災地に)に寄り添い続ける

⇒みんなが笑顔になれる日を目指して、息の長い支援を行う

引き続き温かい支援をお願いします

①災害発生

※9月2

輪島市

②災害規模

※石川県

(27)

※農地や

※3市3

③10月4

・死者

・負傷者

・住宅被害

・避難者

ぷいし

地域

■各県行政報告 東海北陸各県の消費者行政から取り組み報告

東海北陸生協行政合同会議

石川県上原

- (1) 静岡県 県民生活課 消費者支援班
- (2) 三重県 環境生活部くらし・交通安全課
- (3) 富山県 生活環境文化部県民生活課
- (4) 愛知県 県民文化局 県民生活部 県民生活課
- (5) 石川県 県民文化局 生活安全課
- (6) 岐阜県 環境生活部 県民生活課

■開催報告

「フードバンクふじのくに10年の歩み」

フードバンクふじのくに理事長、静岡大学 学長

日詰 一幸 様

①品質には問題のないものの、さ
しましう食料を企業や農家、さ
無償で提供していただき、支
分野の施設・団体（障がい者
設など）に、必要な食品を寄

②1967年に米国・フェニックス
St. Mary's Food Bank Alliance

日本での草分け

「セカンドハーベスト・ジャ
その後、全国各地で増加
現在272団体（農水省資料）
展開

- ・フードバンクを通じ、食品ロス削減・生活困窮者の支援に取り組む
- ・生活困窮者が相談に来るきっかけとなっており、社会課題の解決にも貢献できる活動
- ⇒地元企業の支援で活動をしているが、寄贈量の減少が課題